

7 添付資料 Annex 1-1

The Value of International Democracy Promotion

Roland Rich
Executive Head
UN Democracy Fund (UNDEF)

1

Introduction

- Democracy promotion is an accepted and growing activity on the international agenda
- With the near universal recognition of democracy as a critical element of good governance, democracy promotion has become a part of international efforts to improve national governance around the world
- The establishment of the United Nations Democracy Fund in 2005 marks an important point in the process of cementing democracy promotion as part of the international agenda

2

Historical Overview

- Colonial period conveyed some ideas about democracy but very few newly independent countries were able to make democratic systems of government work
 - India stands out as a positive exception
- Importantly, two Asian countries that were not colonized also sought to adopt democratic forms
 - Japan (Taishō democracy period)
 - Thailand (post 1932 coup by the People's Party)

3

Recent History

- German party foundations “invent” democracy promotion by helping party counterparts in Spain and Portugal in 70s
- 1982 address by Ronald Reagan to the British Parliament, in which he called upon the world's democracies to launch “a global campaign for freedom”
- National Endowment for Democracy established in Washington in 1983

4

Many Organisations are Active

5

Aspects of Democracy Promotion

- Strengthening parliaments
- Reforming government and oversight bodies
- Facilitating and observing elections
- Helping political parties
- Promoting the rule of law and human rights
- Improving civic education
- Resolving civil/military relations
- Strengthening civil society and NGOs
 - Giving political voice to women, marginalized groups
 - Assisting NGOs on advocacy and project delivery

6

UNDEF is Established

- UNDEF supports projects that strengthen democratic institutions, promote human rights, and ensure the participation of all groups in democratic processes
- UNDEF joins other UN groups that support democracy (UNDP, EAD) but is the only group dedicated to democracy
- As a Trust Fund, UNDEF is dependent on voluntary contributions from States
- 120 projects supported in first round – \$35m

7

Major Contributions to end of 2007

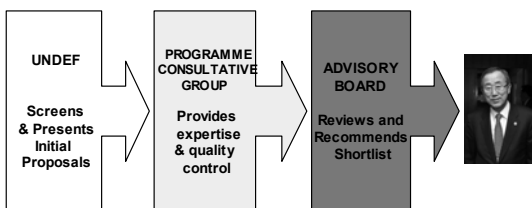
Country	2005	2006	2007	Cumulative total
United States of America	\$10,000,000.00	\$7,920,000.00		\$17,920,000.00
India	\$5,000,000.00	\$5,000,000.00		\$10,000,000.00
Japan			\$10,000,000.00	\$10,000,000.00
Australia	\$7,303,974.44			\$7,303,974.44
Qatar	\$2,000,000.00	\$4,000,000.00		\$6,000,000.00
Germany	\$1,600,000.00	\$1,584,784.50	\$500,000.00	\$3,684,784.50
Spain		\$1,059,080.00	\$1,231,132.50	\$2,290,212.50
France	\$588,100.00	\$629,350.00	\$656,550.00	\$1,874,000.00
Italy			\$1,485,400.00	\$1,485,400.00
Republic of Korea		\$1,000,000.00		\$1,000,000.00



The (small) team at UNDEF headquarters

9

UNDEF Decision Making



10

Members of the PCG

- Providing technical and specialist advice
- Providing quality control and monitoring



11

Advisory Board for 2008

Member States: Australia, France, Germany, India, **Japan**, Mali, Mozambique, Peru, Philippines, Qatar, Romania, USA, Vanuatu

SG's Representatives: Ms Aye Aye Thant, Mr Amir Dossal, Professor Michael Doyle, Professor Adebayo Olukoshi

NGO Representatives: Arab NGO Network for Development, International Commission of Jurists

Members of the 2007 Board



12

UNDEF and Japan

- Japan is a key member of the Advisory Board drawing on its broad experience of democratic institution building
 - UNDEF hopes Japan will remain a strong supporter in the future
- We would also like to see Japanese NGOs involved in UNDEF's work
 - Perhaps in partnership with NGOs in developing countries

13

Gandhi on Democracy

- My notion of democracy is that under it the weakest should have the same opportunity as the strongest
- In true democracy every man and woman is taught to think for himself or herself
- The only force at the disposal of democracy is that of public opinion
- Evolution of democracy is not possible if we are not prepared to hear the other side

14

Thank you

- If you wish to know more about UNDEF, please visit our website at:
www.un.org/democracyfund
- Or send an email to:
democracyfund@un.org

15

Annex 1-2

国連民主主義基金（UNDEF）について

国連民主主義基金(以下 UNDEF)は 2005 年に国連事務総長が設立した基金で、その目的は数々のプロジェクトを通じて民主化を促進するものです。

UNDEF では、年に一回、民主化支援に関するプロジェクト起案を世界各国から公募しています。第一回目の 2007 年には 1300 件そして 2008 年には 1800 件もの公募があり、そのほとんどが非政府組織（NGO）が提出するプロジェクト起案でした。UNDEF による資金対象分野は：

1. 民主的な対話の強化と憲法策定プロセスに対する支援
2. 市民団体のエンパワーメント
3. 市民教育、選挙登録、政党の強化
4. 市民による情報へのアクセス
5. 人権と基本的な自由
6. 説明責任と透明性及び公明性

また UNDEF はプロジェクトに資金を付けるかどうか判断する場合、ひとつの重要な基準として、プロジェクトに社会的弱者（女性、青年、障害者、原住民、少数民族など）の社会的及び政治的な参加などが反映されているか見えています。

***UNDEF の年に一回プロジェクト起案公募に関しては以下のホームページをご覧ください。**
<http://www.un.org/democracyfund/>

国連民主主義基金（UNDEF）のプロジェクトについて

- (1) 現在まで UNDEF は 2 回のプロジェクト起案の公募を行いました。第 1 回目（2007 年）の公募の際には 1300 件のプロジェクト起案が寄せられ、第二回目の公募には 1873 件もの起案書が寄せられました（2008 年）。
- (2) 現在 UNDEF では第二回目で寄せられたプロジェクト起案を評価し、推薦リストを作成中です。その推薦リストはさらに国連内での委員会及び UNDEF 理事会で審議され、その結果、推薦されたリストを国連事務総長へ提出します。最終的には国連事務総長が決断いたします。
- (3) UNDEF には現在 35 国連加盟国から約 6 千 700 万ドルの拠出金があり、日本政府は一千万ドルの拠出金を出したためランク第二位です。プロジェクトへ回る資金はこの国連加盟国からの拠出金から出ています。
- (4) 第一回目に推薦された 125 件のプロジェクト起案のうち現在まで 122 件のプロジェクトに資金を付けましたが（プロジェクト一件につき 5 千ドルから 50 万ドルで平均は 30 万ドル）、3 件は受け入れ側の問題、政治的な問題などがあり、一時停止になっています。
- (5) 122 件のプロジェクトからは中間報告など何からの報告書を定期的に受け取るようになってます。現在まで UNDEF は約 32 件の報告書を受け取り、ドナーに報告しております。また、プロジェクト要約は毎月 UNDEF のホームページに記載されています。
- (6) UNDEF のホームページにはプロジェクトの中間報告以外に「フィールドからのニュース」や国連の民主化に関する活動を紹介しています。例えば 2007 年 12 月 10 日は国連人権の日でしたので人権と民主主義のテーマの記事を UNDEF のホームページに記載しました
<http://www.un.org/democracyfund/XNewsHumanRightsDay2007.htm>

国連民主主義基金（UNDEF）第二回目のプロジェクト起案公募を終えて

（2008年1月7日現在）

（要約）

UNDEFは2007年の12月31日に第二回目のプロジェクト起案公募をしめきりました。今回は世界中から1873件もの起案がありました（前回より44パーセント増加）。寄せられたプロジェクト起案を以下のデータに出してみました。

機関別：

機関	数	割合（パーセント）
市民団体	1610	85.9%
国連機関	131	6.9%
その他の公的機関	55	2.9%
地域的政府機関・協会	43	2.3%
政府	34	1.8%
合計	1873	100%

テーマ・課題別：

テーマ・課題	数	割合（パーセント）
市民社会の強化	540	28.8%
人権と基本的自由	420	22.4%
民主的対話と憲法対策	368	19.6%
市民教育、選挙支援と政党の強化	230	12.3%
説明責任と透明性・公明性	164	8.8%
情報へのアクセス	151	8.1%
合計	1873	100%

地域別：

地域	数	割合（パーセント）
サハラ以南のアフリカ	698	37.3%
アジアと太平洋諸国	413	22.0%
ラテンアメリカ	330	17.6%
ヨーロッパ	218	11.6%
グローバル	108	5.8%
アラブ諸国	101	5.4%
その他	5	0.3%
合計	1873	100%

多い国別：

国名	数
ナイジェリア	111
ネパール	101
コンゴ（民主共和）	78

コロンビア	66
シエラレオネ	53
インド	50

地域プロジェクト別：

地域	数	割合（パーセント）
グローバル	108	30.2%
ラテンアメリカ及びカリブ諸国	83	23.2%
サハラ以南のアフリカ	74	20.7%
アジアと太平洋諸国	49	13.7%
ヨーロッパ	29	8.1%
アラブ諸国	15	4.2%
合計	358	100%

続きのステップ：

現在 UNDEF ではプロジェクト一件ごと評価してランキングをつけており、それが終了しだい「ショートリスト」を作り、そのリストを programme consultative group で審議します。そのあと国連事務総長にリストを提出するため事務総長の理事会 advisory board でリストを更に審議します。最終的には事務総長が判断し決定を下します。

事務総長が承諾したプロジェクトには3月か4月ごろ UNDEF が連絡をとります。そのあと UNDEF のガイドラインにそって正式なプロジェクト起案（full project documents）を提出してもらいます。そのプロジェクト起案が適当なものだと判断され次第、資金を受け取ることになります。

国連事務総長

民主化構築の途上にある国々についての国際会議（2007年12月17日） でのスピーチ(朗読は事務総長補佐アンゲラ ケーン氏)

要約

多くの被害者を出したアルジェリアでのテロ爆弾から6日がたった。この事件は今日の会議に実は特別な意味を持つ。それはテロというのは国際社会、そして安全と保障を脅かすものだからだ。そしてさらに重要なのはテロによりまったく関係のない市民が巻き浴いとなり多くの負傷者、死者を出したからだ。テロは国際人権法を無視する野蛮な行動である。

人権を守り、民主主義を支え、社会正義を尊重するのはテロから国際社会を守る有効な方法である。それは人権を守る、民主主義国家を育てる、社会正義を尊重するということが貧困から人々を脱出させ、テロへの関心と興味をそらし、人間らしい生活そして世界平和へと導くからである。

グローバル化、特に情報過剰な社会は世界で富の差を生じさせた。しかしグローバル化には、民主主義カバナンスを支援するパワーが備わっている。それはグローバル化、特に情報は人々をネットでつなぎ人々の生活を豊かにする可能性を秘めているからだ。

民主化の重要なプロセスの一環である女性の地位向上のため私たちは力をあわせなければならない。女性の地位向上だけでなく社会、経済、そして政治とすべての場所に女性が参加するチャンスを設け、さらに女性は各分野において決定権をもつべきである。

国連は民主化支援を長い間課題としてきた。そして2005年に事務総長自身が民主主義基金(UNDEF)を設立した。UNDEFは毎年基金からプロジェクトに資金を出し民主化を支援している。そこには多くのNGOが質の高い民主化支援プロジェクトを起案している。そしてそれ自体パートナーを築くという意味で価値があることだと思っている。

Annex 2-1

UNDEF
Japanese NGO Workshop

**INGOs and Stakeholder Engagement:
Democratization Contexts and Strategies**

Dr. Preeti Shroff-Mehta
Director, Civil Society & Governance Programs
World Learning

World Learning Presentation,
Japan 2008

1

Understanding Democratization

- What is Democratization?
- How can Civil Society strengthen Democratization?

World Learning Presentation,
Japan 2008

2

Stakeholder Engagement Contexts

- **Democracy Deficit : Failing 'Governance' Institutions**
- **Complexity of Cultures: Diversity**
- **Global Challenges: Sectoral and Regional Partnerships**

World Learning Presentation,
Japan 2008

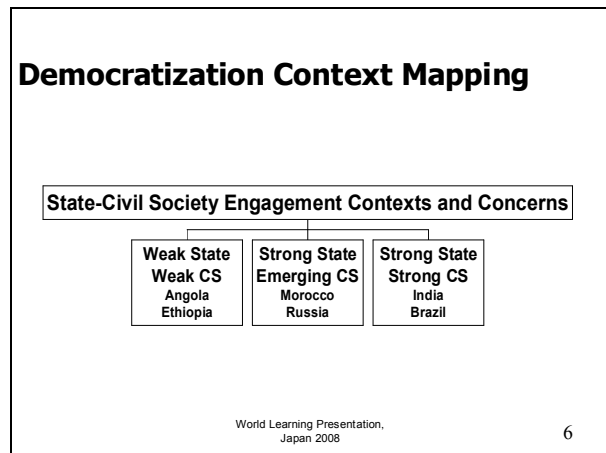
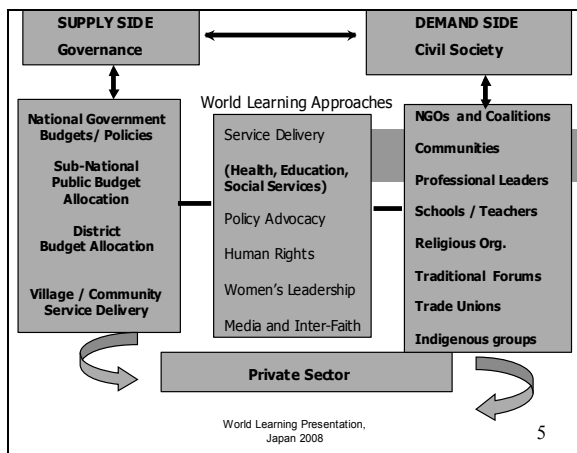
3

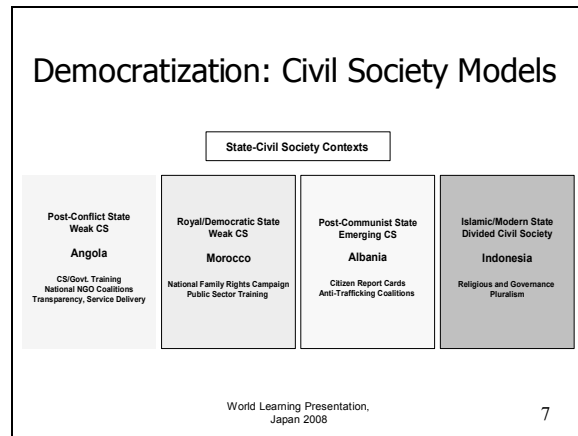
Emerging INGO Approaches

- **Good Governance: Election Monitoring to Policy Advocacy and Service Delivery**
- **Human Rights: Minority and Vulnerable Populations' Citizen Rights**
- **Research and Idea Leadership: Citizen Action**

World Learning Presentation,
Japan 2008

4





Annex 2-2

NGOによる民主化支援セミナー
 ・パネル「民主化支援の具体例」

『カンボジアでの民主化支援と日本のNGOの可能性』 熊岡路矢
 (カンボジア市民フォーラム共同代表世話人)

スライド提供(上智大学博士課程 山田裕史氏)

2008年2月2日 1

1)この分野での、これまでのNGOとしての経験:

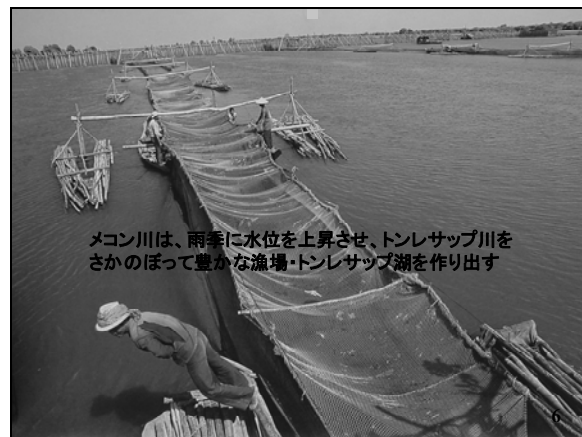
- 紛争中の地域→人権を守り、弱い立場の人々を精神的物理的に支える活動が必要。
 「人道支援」で入るしかない状態
- 紛争後(例: 和平条約成立後)→民主的統治、和解、社会経済復興を確立していく過程。＝「平和の定着」。

2008年2月2日 2

1)経験－カンボジアに関して(前段＝1991年10月パリ包括和平協定以前)

1979年ポルポト(KR)政権の崩壊に際しての、難民大量流出 — 難民救援活動(タイ等)
 同時に、カンボジア国内での緊急人道支援、復興協力 (1982年チームのカンボジア入り)
 「日本国際ボランティアセンター(JVC)」としての経験
 * ソマリア、エチオピア、ルワンダ、南ア、パレスチナ、イラク、アフガニスタン、旧ユーゴ等での活動経験

2008年2月2日 3





1) 経験—教訓

- ・紛争中に関わることが、紛争解決後の社会経済復興に有効に関わる基盤となった。
- ・「紛争・解決」のある程度の一般化は可能であるが、すべての紛争は、固有なものである。
- ・その国/地域/人々の言語・文化・宗教・価値観、歴史、社会秩序、誇りを理解して初めて、関与することができる。

8

1) 経験的に: 民主主義・民主化について

- 1) 発言・行動の権利が守られる。⇔安心して生きていける(食べていける)。その保障。
- 2) 一党独裁より、複数政党制の方がよい。それが全てではない。(政権交代をふくめ、民主的統治、法による支配の内容の問題)
- 3) 差はあるが、全ての国は発展途上。
- 4) 普遍的な概念であるが、唯一絶対の民主主義(国)があるわけではない。強制できない。

9

イラク: 2007年4月18日バグダッド (爆発事件・殺害・誘拐・強制移動) BBC



10

2) 歴史-独立後の4つの政権とその指導者たち



※カンブチア人民共和国は1989年4月、国名を「カンボジア国」に改称

11

ポルポト派による大量虐殺の悲劇



(推定死亡者170万人=総人口の4分の1)

ほとんどの人が家族の誰かしらを失っている

12

1) 経験—和平後の契機

トゥン・サライ氏

1990年、ヘン・サムリン政権下において、複数政党制の主張・政党樹立の嫌疑で、逮捕される。(当時、社会研究所副所長) 収監。

監獄の劣悪な状況で、発病、健康悪化、カンボジア包括和平協定(91年10月)で、釈放され、辛うじて命が救われた。(この時点で、地元NGOの設立が認められた。)

各政党から高位の地位をオファーされたが断り、市民による人権・民主化NGOを創立した。(ADHOC=カンボジア人権・開発協会)

13

サライ氏とADHOC

1991年12月、サライ氏釈放後まもなく、ADHOC(カンボジア人権開発協会)は設立された。当時、権力からのかなりの圧力が予想され、危険なじょうきょうであった。

二つの保障。1) サラヴァン・テコ寺境内で設立。仏教-寺院-僧侶による保護。(カンボジア風)
2) 国際社会による連携と保護・保障

14

サラヴァン・テコ寺院(ブンベン市内)1991年12月



15



16

サライ氏(ADHOC)パニャ氏(COMFREL)
2007年12月10日「世界人権デー」



17

1) NGOとしての経験(カ和平協定成立後)

- 現地NGOと協力し、人権、教育、選挙監視(投・開票過程の監視～有権者教育支援、軍人・警察官ふくむ公務員教育への協力)。
- [カンボジア] 現地NGO(カンボジア人権・開発協会=ADHOC等)、地域NGO-アジア自由公正選挙連盟=ANFRELなどと協力。
- 対立党派の和解調停「円卓会議」

18

*93年9月：カンボジア市民フォーラムの設立

1) その受容能力に対して、あまりに急速な市場経済導入と、「援助の洪水」に溺れるカンボジア。復興・開発の方向性への提言

2) 一気に脚光を浴びたが、当時、日本で知られていなかった、カンボジアの現実を日本の各界に知らせ、双方の市民社会、CSO/NGOを繋ぐ。

* 関係団体としては：「カンボジア国際NGOフォーラム」→「カンボジアNGOフォーラム」

19

1) NGOとしての経験

- 1998年選挙実施に向けて、政府との対話継続。
- 2002年、2007年地方選挙、2003年総選挙：日本大使館委託。国家選挙管理委員会、選挙監視NGOの調査。
- ICORC会議、援助国会議でのNGO提言。
- NGO・外務省定期協議（政策協議会）などでの、「人権問題とODA」の議論（ネパール、ミャンマー、フィリピン、カンボジアなど）。

20


2) 歴史-パリ和平協定後15年間の時代区分

① 国連による暫定統治期
：1991年10月～1993年9月

② ラナリット第1首相とフン・セン第2首相の蜜月期：1993～1996年

③ フン・セン人民党体制の確立期
：1997～1998年

④ 権威主義体制下での政治的安定期：1999年～現在



21

2) 歴史(現状に繋がる)-1997年7月武力衝突



22

2) 歴史：この状況下、カンボジアNGOとの連絡ができなくなった。その後の一年。

* 衝突直後の1997年8月にカンボジアに入り、ADHOCなどと行動を共にした。(地域内NGOとしては、フォーラム・アジア)

1) カンボジア政府(軍・内務省・警察)・政党への申し入れ。FUNCINPEC兵士の釈放、(裁判の実施)

2) 軍・警察幹部・一般職員への人権教育

3) 1998年総選挙に向けて：有権者教育、公務員教育、「円卓会議」、投開票日のモニター。事件調査などへの参加。(地元選挙監視団体=COMFREL、COFFEL、NICFEC)

23

国民議会選挙と行政村選挙





3) 問題認識と基本的な考え。
民主化・人権を巡る複合的な否定要因

①戦争・内戦から家庭内暴力・人身売買にいたる「暴力の文化」、「暴力・犯罪が罰されない」「IMPUNITY」の文化」の問題性。(とりわけ女性・子どもの立場から) 腐敗と独裁が進む。

②[専横と土地問題と貧困]政治的有力者、軍・警察の幹部などに不当に、土地を奪われ、追われる世帯。貧富の差の一層の拡大。開発事業(経済地区開発など)の結果としての強制移転も。

27

内戦・クーデターは終わったが。

自然資源の乱獲
環境と農民の生活の破壊
土地問題

HIV/AIDS問題
両親をエイズでなくす
タイの2.7%を上回る5%近い発生率を見る深刻な事態

格差の拡大と競争の激化

平和の成立によって市場経済が導入され、「HIV/AIDS問題」、「環境破壊」、「土地問題」そして「格差拡大」という新たな問題が生じた

28

路上居住者とスラムの増大

人身売買の問題

地帯

さらに、まだ未解決なたくさんさんの問題

あふれるゴミ

古く、狭い教室と二部学編制

医療施設の不足

29

3) 問題認識と基本的考え方

- [土地問題と権力による司法支配の問題] 土地問題は、統治・司法の問題に直結。
- 日本／国際社会の協力で、刑法・民法などが整備されていくこと自体は高く評価。
- 居住・土地という市民の死活問での裁定・調停には、公正で独立した司法機関が不可欠。

30

現在-クメール・ルージュ裁判へ

- 1998年4月、ポル・ポト死去、1998年12月、ヌオン・チアとキュウ・サンパンが政府に投降。
- 1999年3月、最強硬派のター・モック元参謀総長の拘束・死→反政府勢力としてのKRの終焉。
- 2008年裁判へ。



31

4) 民主化支援:まとめ

- カンボジアNGOとの協力
- 選挙: 投開票日の監視活動に留まらない、有権者登録での関与、さらに長期の有権者教育、公務員教育への関与 貧困削減・開発課題との関連(社会開発協力事業との関連)において: 人権・民主化やよい統治とのリンク。全体(人権・ジェンダー／開発／環境／紛争解決)を統一して展望する理念と、相互に連携する事業の組立。

32



33

演劇を通じての有権者教育(NICFEC)



34



35

5) 教訓と課題

- カンボジアにおける、2008年7月の総選挙および総選挙に向けての過程を、カンボジアNGOとの連携でカバーする。
- 現地カンボジアNGOを中心に、日本のNGO、アジアのNGO(ANFREL)、外務省・現地大使館、UNDPなどとの連携もできている。

36

COMFRELとの協働(カンボジア市民フォーラム)山田事務局長



37

カンボジア市民フォーラム(野党被害者からの聞き取り)
@ADHOC/COMFREL地域事務所



38

5) 教訓と課題

- 「よい統治」、三権分立(独立)、人権・民主化の分野において、指導者への働きかけ、および公務員教育の重要性。a) 最高幹部 b) 中堅幹部 c) 一般公務員に分けて考える。
- 農村開発・地域開発活動との融合。(草の根からの民主主義、ジェンダー重視)
- 民主化＝その国の総合的な政治・社会・経済発展とリンク

39

難民キャンプおよび国内農村での、水・医療・栄養分野等で活動



40

1980年代「難民」の出ない村づくりを



41



貯蓄から始める、女性相互扶助グループ(小規模ビジネス)

42

アジア財団主催「カンボジア民主化と2008年総選挙」セミナー(パンニャ事務局長を迎えて)



43

5) 教訓と課題

民主化支援の分野(日本のNGO)

- 1) 理念、論理化を強化する必要。
- 2) 基本的には、現地NGOとの協働を中心として実績もあり、経験の蓄積もできてきている。
- 3) 日本における、この分野での支援可能性が少ないために、人材-資金の悪循環に陥る。
- 4) 過少評価。
- 5) 日本のCSO, 複数アクターの連携

44

ご清聴有難うございました。

カンボジア(いまも、戦乱の後遺症の中にある)のみならず、旧ユーゴ、スーダン、パレスチナ、イラク、アフガニスタン、スリランカなど、現在進行中の紛争の解決および、紛争後の総合的な復興(社会経済の復興、和解、民主的統治、社会発展)を祈ります。

45

Annex 3-1

社会開発事業に民主化支援を取り入れるには: 市民団体と社会的弱者を支援して

池田明子
諮問委員会担当官
国連民主主義基金 (UNDEF)
国連事務局 (United Nations)

1

民主化とUNDEFの民主化支援

- 国連と民主化支援
- 国連事務総長による民主主義基金の設置
- UNDEFの目的: 民主化支援のためのプロジェクトに資金を出している



2

UNDEFの6の優先分野・項目

1. 民主的な対話の強化と憲法策定プロセスに対する支援
2. 市民団体のエンパワーメント(強化)
3. 市民教育、選挙登録、政党の強化
4. 市民による情報へのアクセス
5. 人権と基本的な自由
6. 説明責任と透明性及び公明性

3

UNDEFのプロジェクトの公募

- 毎年秋(10月-12月)ごろに公募がある
- ON-LINEでホームページでの公募
- いままで2回の公募があり、2回ともNGOの関心がとても高い



4

2007年と2008年の比較

- 市民団体の強化
2007年 27.9% 2008年 28.8%
で両年市民団体の強化の分野の割合が一番高い
- 応募団体
2007年 70% 2008年 86%
NGO(70%) NGO(86%)
で両年NGOの関心が一番高い

5

NGOによる民主化支援への関心の高さ

- UNDEFは国連機関よりNGO団体を中心に援助したい。
- NGOは国際NGOと現地のNGOがあり、プロジェクトの「質」の差、英語の正確さにも「差」がある
- がUNDEFは現地のNGOをよりサポートしたい

6

市民団体の強化の意味

- NGOが民主化支援の分野でより活発化
- 他の団体と連帯してキャパを強くする



7

市民団体の強化（過去のプロジェクト例）

- メディアの強化（ガンビア）
- 民主化支援のネットワークを広げるために（ラテンアメリカ諸国）
- 平和イニシアティブを育てるために（コンボ）
- 女性の政治への参加（インドネシア）
- NGOの政治参加の強化（セネガル）
- 弁護士によるメディアの自由化を目指して（タジキスタン）

8

社会的弱者とは？

- 受益者とは誰か
- 参加的民主主義(participatory democracy)
- 社会的弱者

よくある例：女性（ランキング）、子供、青年
ほとんどない例：高齢者、障害者、少数民族、
原住民



9

UNDEFが支援したプロジェクトの受益者（過去例）

- 女性（コンボ、北イラク、アフガニスタンなど）
- 青年 — 若い弁護士、村の青年（タジキスタン）
- 少数民族（タイなど）
- （少数）障害者（アフガニスタン、北イラク）

10

UNDEFが強調したい点

(1) 市民団体の強化

(2) 社会的弱者への支援

11

日本のNGOの活動について

- 社会開発型が多い（教育、保健、緊急援助など）
- 民主化支援のNGOは少ない（選挙登録、選挙支援など）
- 活動内容をいきなり変ることよりも
- プロジェクトを民主化支援風あるいはUNDEF風にするにはどうするか

12

プロジェクトを民主化支援風、UNDEF風にするには

- 民主化支援を意識してプロジェクトの書き方・表現の仕方を少しかえる

例:

このプロジェクトは主に30人の女性による
社会的参加をめざし



このプロジェクトは主に30人の女性による
民主化的参加をめざし

13

受益者の見直し

- プロジェクトの受益者は誰だろうか
- 一般の教育のプロジェクトに市民教育の項目を入れて受益者に「地雷で犠牲になった青年30人—そのうち女性を10人—含む」など



14

すでに民主化支援をしているNGOは

- UNDEF 風にするには
- 一般の選挙登録のプロジェクトに障害を持つ人々にも登録してもらうため「手話による研修」をおこなう
- また原住民や少数民族の人たちにも登録してもらうために「特別研修を2週間」行うなど



15

国連の重要課題

- 日本のNGO:「国連の課題にリンクする」のが苦手? (レlevance)
- 「すべての人々に機会を」や「社会の包括的なアプローチ」に視点をおいてプロジェクト起案を書く
- 人権問題—障害者人権条約
- 気候変動、貧困問題(MDG)など

16

人権—障害者人権条約

- 2006年12月に国連総会で採択された
- 障害者による障害者のための条約
- “not about us without us”(私たち抜きでは条約ではない)
- 障害者の参加(300以上の障害者団体が参加); 障害者の声(文字拡大のためのスクリーン; 手話による会議、点字の書類など、国連で初めての試み=アクセシビリティ)
- 現在まで123カ国が署名した(日本は去年の9月)

17

国連の重要課題

- プロジェクトを国連の重要課題に「リンク」すること
- それにより一層INCLUSIVE(包括的)で民主的で持続的なプロジェクトをUNDEFは支援したい。
- 合格点により近くなる。

18

2008年は日本にとって一

- 重要な年(TICAD及び主要国首脳会談)
- 非西洋国(日本、インド、カタール)への期待が高い(2007年国際平和学会)
- 日本は正式にUNDEF顧問委員会のメンバーとなる・日本による基金への支援(第二位)
- 日本の強み一人材養成(人間の安全保障などの実績)

19

最後にNGOの方々へ

- NGOの現在続いている活動を変える必要はない
- 継続しているプロジェクトに国連の重要課題(国際的な枠組みの中で)を意識
- 民主化支援を意識
- 以上をプロジェクトに反映する

20

ご清聴ありがとうございました

池田明子(A. Ikeda-Wei)
諮問委員会担当官
国連民主主義基金事務局
国連本部
ikeda@un.org
212 963 3822

21

資金調達、パートナーシップパワー モニタリングについて

池田明子
諮問委員会担当官
国連民主主義基金 (UNDEF)
国連本部 (United Nations)

1

始めに

- 資金調達(RM)、パートナーシップパワー(PP)とモニタリングは異なった概念をもつ
- プロジェクトサイクルの位置
組み: モニタリングの位置
- RMとPPの関係

2

資金調達(RM)について

- 資金調達とは: ドナー(政府、財団・基金、国連機関、個人、企業、研究所、大学など)から資金をもらうこと
- また資金運営に関するレポートの準備及び手紙のやりとりなど

3

パートナーシップパワー(PP)

- パートナーシップパワー(PP)とは: 政府、財団、国連機関、一般企業、研究所、大学などとネットワーク/連帯して自分の組織にパワーをもたらすこと
- なぜパワーか(資金だけでなく、知識、アイデア、支援など)
- 財団: 地球問題に関心がある(慈善活動)
- 一般企業: CSR企業の社会的責任; 日本の企業の「窓口」になる; 経団連やグローバルコンパクトのサイトを見る

参考: "Public-Private partnerships at the United Nations" 国連基金・国連パートナーシップ事務局 2006年3月

4

CSR について

- 経団連のサイト
<http://www.keidanren.or.jp/indexj.html>
- グローバルコンパクトのサイト
<http://www.unic.or.jp/globalcomp/index.htm>

5

国連経済社会理事会ECOSOC

- 国連とのパートナーシップ: 分野を定める
- ECOSOCにNGO登録をしてみる
(<http://www.un.org/esa/coordination/ngo/>)
- ニューヨーク国連本部のECOSOC事務所へ訪ねてみる。またはUN広報局Department of Public Information または国連広報センター(青山学院前; 国連大学)へ出向いてみる。

6

モニタリングとは

- モニタリング:プロジェクトの過程(問題点なども含む)を報告する・変化があったら報告する・ドナー及び本部へ定期的に報告する
- 電話、メールのやりとり、現地視察、関係者との会議など
- UNDEFは現在2007年のプロジェクトのモニタリング中(メールのやりとり、中間報告のまとめ、関係者との会議など)

参考:国連労働機関・評価マニュアル1999年3月

7

広報

- キャンペーン・啓蒙活動
- 自分の団体の活動のアピール
- HPや書類をアップデートする(アクセシビリティにも注意を払う)<http://www.unic.or.jp/>または<http://www.un.org/disabilities/>を参考に(UNDEFは各NGOのサイトをチェックして評価している)
- セレブを使う

8

評価の高いプロジェクトとは

- 一貫性がある
- 結果がはっきりして具体的
 - “このプロジェクトにより50人の青年がリーダーとして活躍しそのうち30人は女性である”
- 民主化支援であって一般の開発支援ではない
 - 選挙、国会、議会、平和対話、弁護、法律、人権など/健康などのプロジェクトは除く

9

評価の高いプロジェクトとは

- プロジェクトで対象となる人々を具体的に書く
 - “X村に住む30人の少数民族の青年を対象とする”
 - “400人の障害をもつ女性と青年が人権についての研修を受けそのうち50人ほどがX市のリーダーとして市の環境問題について活躍する”など
- 活動と結果が予算に合うこと
- 予算は人材(人件費、旅行費、給料など)をできるだけ避け活動にかかわる費用に重点を置く
- 最後に英語間違えより内容を簡潔にシンプルにするほうがいい評価を得られる(日本人の英語力について)

10

過去に選択されたプロジェクトの例

- 市民団体強化の分野
 - タジキスタン「保護されるべきカ」



11

タジキスタン

- プロジェクトのユニーク性と活動内容が具体的に結果が明確だった
- 英語の間違えが多少あってもよい

12

人権の分野で選択されたプロジェクト

- アフガニスタン「ラジオでのイスラム教及び女性の権利のメッセージ」



13

アフガニスタン

- ラジオによる52のエピソードを流す
- それはアフガン女性の唯一の「楽しみ」をもたらした
- 人々に明るい希望と未来を与えた

14

- 北イラク「平和のプログラム」



15

北イラク

- 女性権利に関する啓蒙活動
- 4万人にも及ぶ参加者(女性、少数民族、障害者、国民難民など)



16

終わりに

- 世界・国際問題に貢献・解決できるようなプロジェクト
- 社会的弱者を含む多くの人々にためになるような民主化支援プロジェクト
- 2008年の秋のUNDEFによる公募

17

ご清聴ありがとうございました。

池田明子(A.Ikeda-Wei)
諮問委員会担当官
国連民主主義基金(UNDEF)
国連本部(United Nations)
電話212 9633822
メール ikeda@un.org(日英可)

18

Annex 3-2

UNDEF
Japanese NGO Workshop

**INGOs and Stakeholder Engagement:
Democratization Contexts and Strategies**

Dr. Preeti Shroff-Mehta
Director, Civil Society & Governance Programs
World Learning

World Learning Presentation,
Japan 2008

1

Stakeholder Engagement Tools

- Albania Poverty Reduction : Citizen Participation and Report Cards
- Indonesia Government Pluralism: Emerging Leaders' Forums
- Angola: National CSO Network Capacity
- Morocco: Public Awareness and Advocacy Campaign

World Learning Presentation,
Japan 2008

2

Civil Society Workshop

CS Stakeholder Engagement

World Learning Presentation,
Japan 2008

3

Project Development Strategies

World Learning Presentation,
Japan 2008

4

Stake-Holder Engagement Stages

- Planning
- Pre-engagement
- Engagement
- Post-engagement

World Learning Presentation,
Japan 2008

5

Constraints in Stake-Holder Engagement

- Limited local context understanding
- Lack of long-term vision
- Fragile trust
- Unclear goals
- Inflated expectations
- States Quo
- Ideological Barriers
- Lack of an enabling environment

World Learning Presentation,
Japan 2008

6

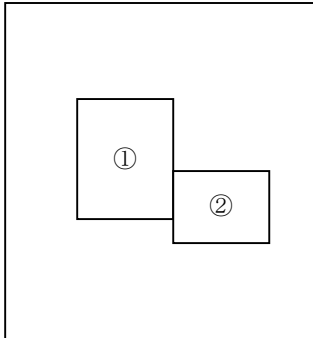
Strategies for Encouraging Stakeholder Engagement

- Define comparative advantage of various stake-holders
- Understand contexts and complexity
- Take risks and engage
- Effective communications
- Identify common goals and collective interests

World Learning Presentation,
Japan 2008

7

■写真提供（表紙）



①©安井浩美／（社）シャンティ国際ボランティア会

②©瀬戸正夫／（社）シャンティ国際ボランティア会

NGO による民主化支援セミナー報告書

発行 : 外務省 平成 19 年度海外 NGO との共同セミナー

執筆／作成 : 社団法人シャンティ国際ボランティア会

〒160-0015 東京都新宿区大京町 31 慈母会館 2・3 階

TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220 URL <http://www.sva.or.jp/>

発行年月 : 2008 年 2 月